



アマモの種、土や砂利混ぜ...

泥団子 藻場の希望に

県漁協組合員ら 佐伯湾などで保全活動

【佐伯】佐伯市の県漁協佐伯地区漁業権管理委員会（松下和喜久委員長）は14日、佐伯湾、番匠川河口付近の藻場保全を目指してアマモ（海草）の種まきをした。漁業資源保護などにつなげようと、本年度から取り組み始めた。



①アマモの種を入れた泥団子づくりに励んだ関係者。佐伯市東灘の灘地区防災広場②丁寧にアマモの種入り泥団子を水中に落とす関係者。佐伯市東灘付近の番匠川河口

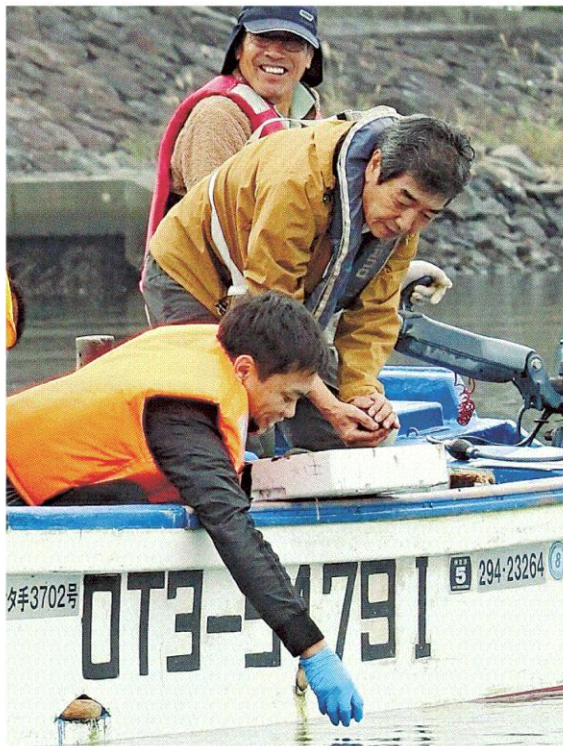
組合員、県、市の職員と、社会貢献で参加したムエタイM-1バンナム級世界王者の平井将歳さん（ブレイブリージム佐伯店代表）ら12人が市内東灘の船だまり近くの灘地区防災広場に集まった。

まずは下準備。アマモ生育場所近くの土や砂利、育苗用培土、水を混ぜ合わせた泥を用意。今年6月に採取し、冷蔵保管していた2、3ミリの種をワッシャーに5個ずつ移して、周囲を

泥で覆った。この後、泥団子状にした種約100個を同河口付近のポイントに沈めた。

松下委員長は「昔に比べて藻場は激減しており、増やしていくことが大切。漁に出る際に生育状況などの観察を続けた」と話し、「工夫を重ねながらの長期的な取り組みになる。来年は地域の子どもたちと一緒に活動できれば」と期待を込めた。

（安部亮）





〔問①〕 「アマモ」とは何ですか？

〔問②〕 「藻場」とは？

〔問③〕 海の環境を守り、魚のすみやすい海にする取り組みが進められています。自分たちにできること、社会全体で取り組むべきことを考えよう。